

卒業生に対するアンケート調査 結果報告

東京成徳短期大学幼児教育科
教務委員会（FD 委員会）

<調査目的>

卒業生の進路・就職状況等から、本学の教育の成果や効果を把握・確認し、教育活動等の改善の検討に活用することを目的とする。

<調査対象>

2019 年度卒業生 184 名

<調査時期>

2022 年 8 月 16 日から 8 月 29 日

<調査方法>

在学中に大学から付与されたメールアドレスに対し、Web アンケートへの協力を依頼するメールを送る。

<調査内容>

- 勤務先等の現況
- 業務に係る各種スキルや知識
- 大学での学修の振り返り
- 就職活動の振り返り・就職支援プログラムへの協力意思確認
- 意見・要望

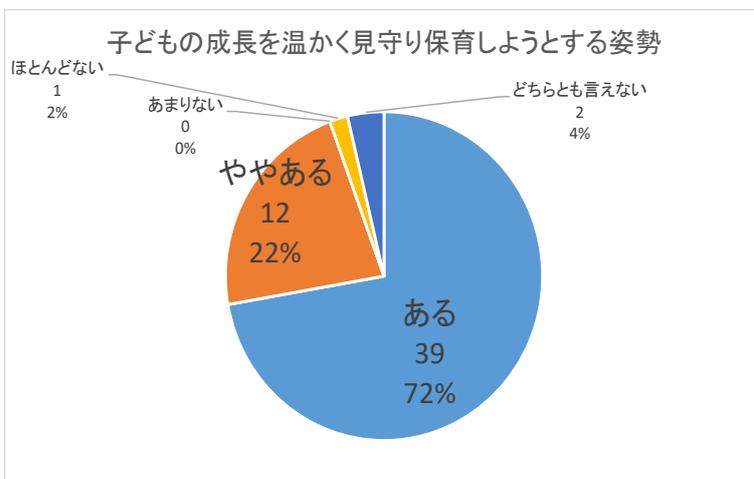
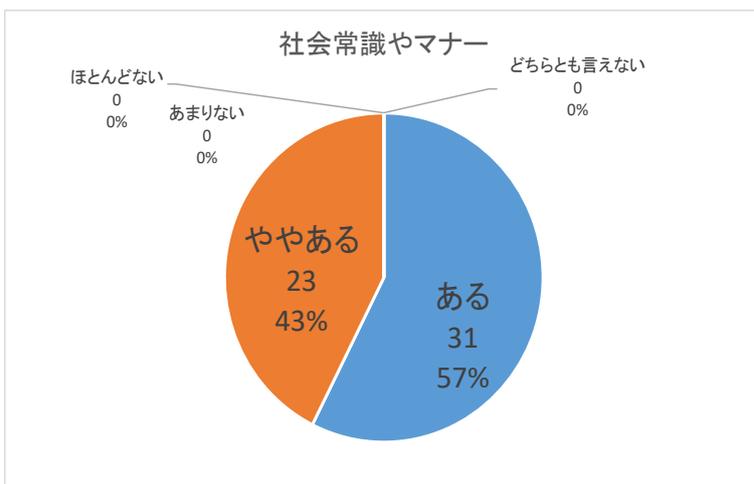
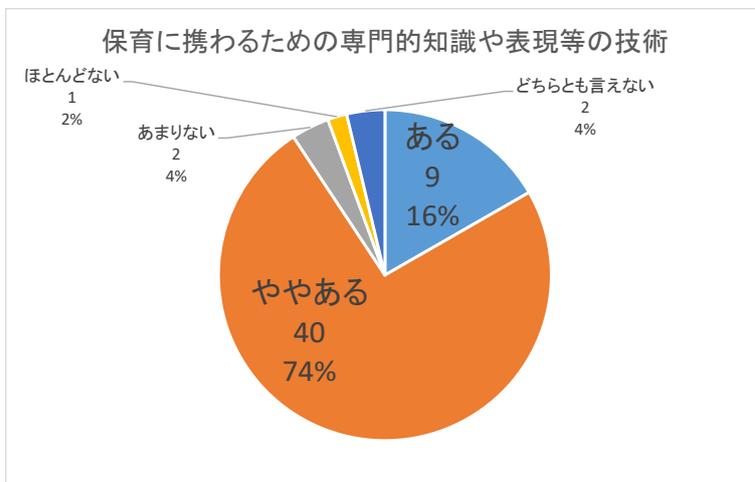
<回答者・回答率>

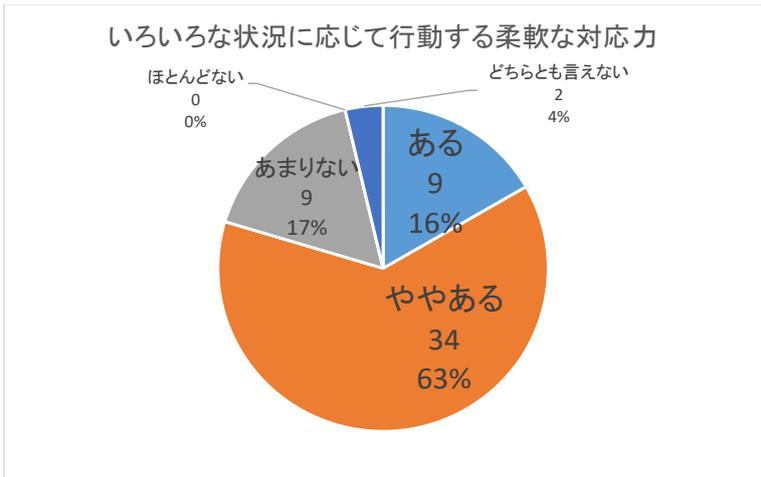
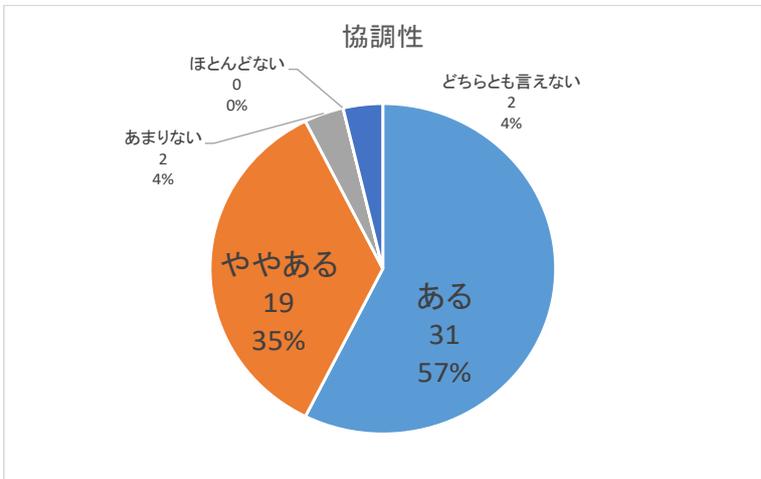
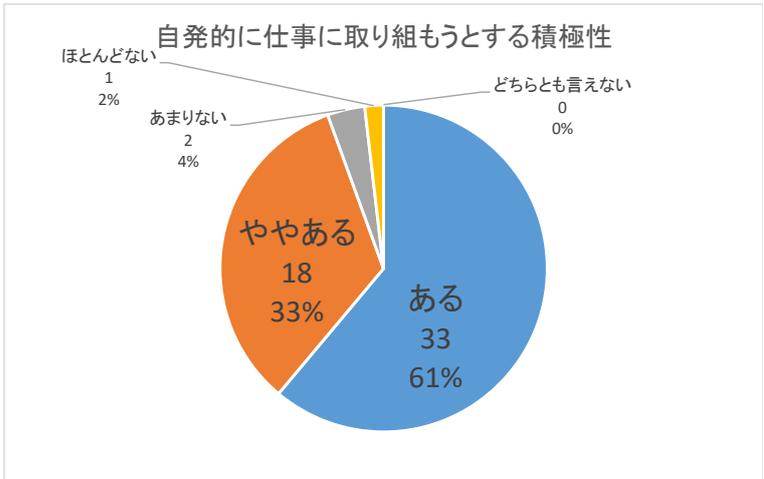
184 名中 54 名 回答率：29.3%

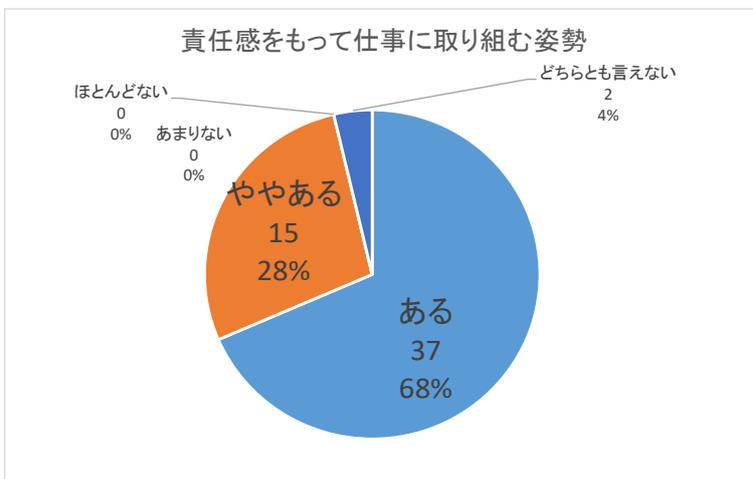
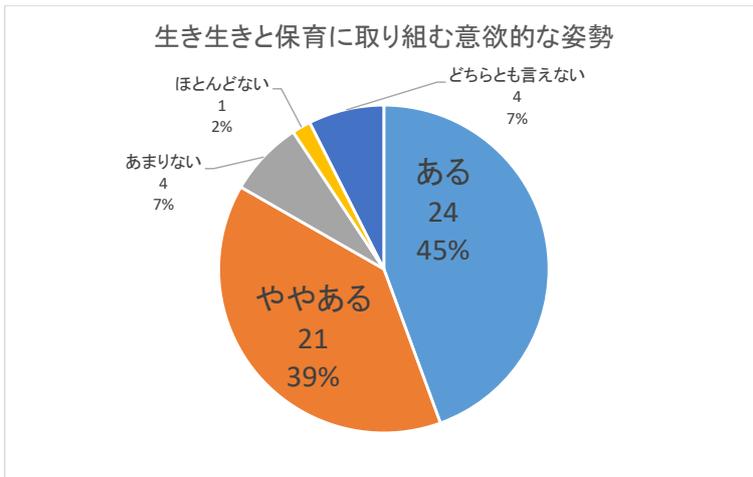
<回答結果>

- 1 氏名
- 2 学籍番号
- 3 現在の所属（勤務先等）

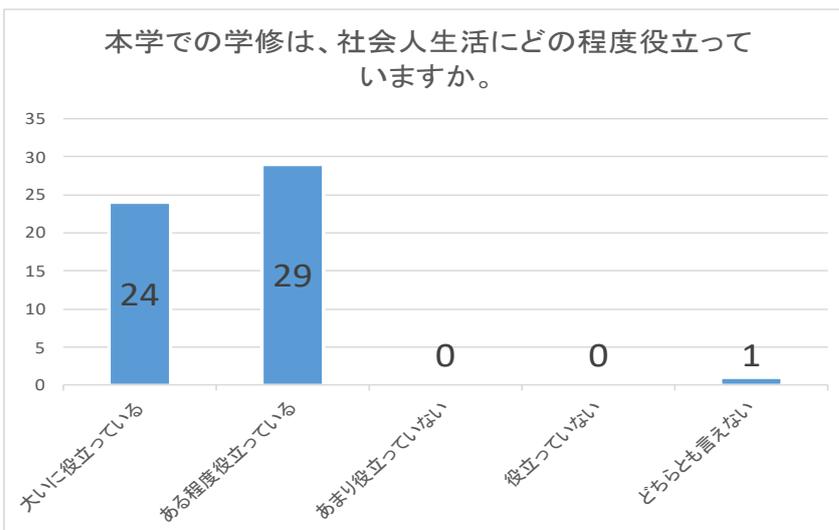
4 現在のあなたご自身についての自己評価を伺います。各項目について、該当すると思われる選択肢を選んで下さい。







5 本学での学修は、社会人生活にどの程度役立っていますか。



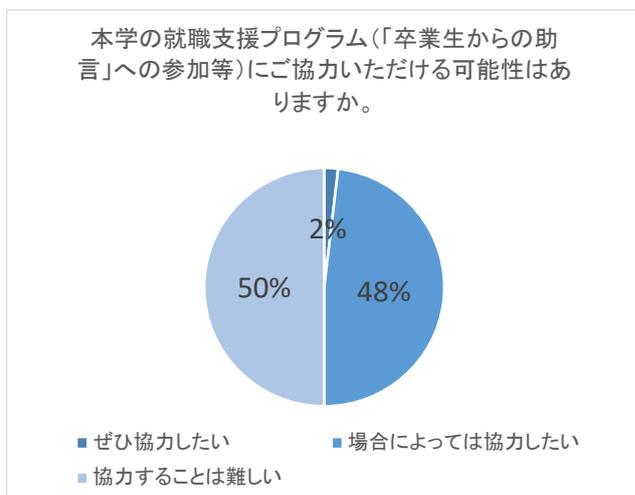
6 本学での学修で社会人生活に役立った内容やエピソードなどがあればご記入ください。

「本学での学修で社会人生活に役立った内容やエピソード」については多様な視点でのコメントが見られた。保育者になった者がほとんどであるため、授業の内容と現在の仕事内容が直結しており、授業で習ったことを直接活用したり、在学時に使用したテキストを現在でも参照したりしている者もいた。実習はもちろんのこと、授業で行った実践的な学びが役立っていると考えている卒業生が多いようである。また、中には「ロボットを育てるのではなく、いい子に育てるのではなく、その子の個性を尊重しながら保育することの大切さを授業で学び、それが身につけていることは職場で褒められました」というコメントもあり、実技面以外にも、保育者としての考え方や姿勢が養われていたことに3年目ですでに気づいている卒業生もいることがわかる。

7 就職活動について後輩への助言がありましたらご記入ください。

「就職活動について後輩への助言」については、様々なアドバイスが寄せられた。園見学や説明会に参加して、外からではわからないことを見極めることの重要性について言及する者が多い。「保育後の仕事」の内容や実際の勤務形態、年収、福利厚生などの他にも、園の人間関係や雰囲気、園長の人間性や経営理念・方針を把握することの重要性についても記されている。また、「自分なりにやりたい保育」「自分のやりたい保育」「自分が一番惹かれる保育」という表現で、自分自身の信念に合致する保育の理念や方針を掲げている園を選択するように助言する卒業生が複数いた。「自分が目指した夢を信じて、1人で抱え込まず、頑張ってください」というコメントからは、その夢を実現させた卒業生自身の満足感が見て取れる。また、保育以外の道に進んだ者も、「保育で学んだ知識はどこかで必ず活かします」と言うように、本学での学びをポジティブに捉えていることがわかる。保育者を目指す後輩に「頑張った分だけ後からついてくるので頑張ってください」とエールを送る卒業生もいる。在学時、卒業生自身が真剣に就職活動に向き合っていたからこそ、このようなアドバイスができるのであろう。

8 本学の就職支援プログラム（「卒業生からの助言」への参加等）にご協力いただける可能性はありますか。

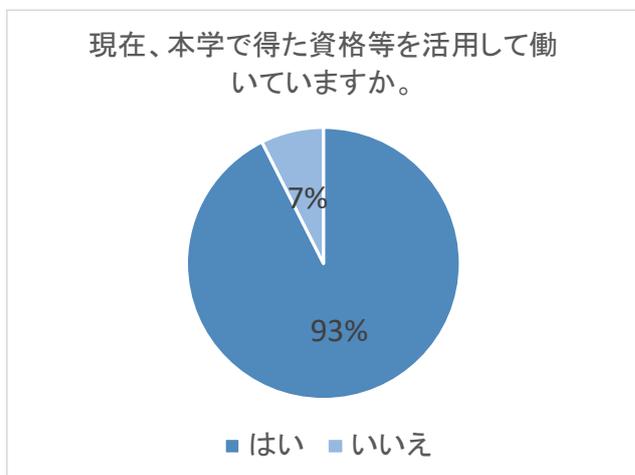


9 その他、本学の教育課程や就職支援等について、ご意見・ご要望があればご記入ください。

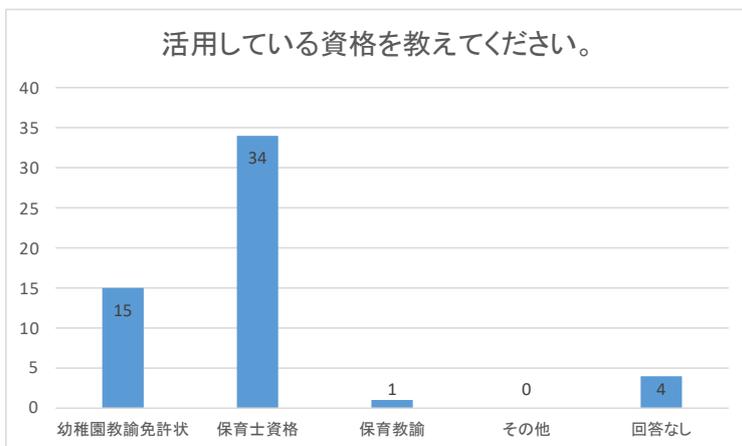
3年目で実習生の指導を担当している卒業生は、指導の中で、自分自身は大学で教わっていたことを今日の前にいる学生は教わっていないのだと認識し、本学の学修の充実度を知ったようである。

また、この年代の学生は、2年生の2月に新型コロナが日本に入り始めた時期であったことから、リモート授業を受けずに卒業している。そのため、自分が受けていた対面のみ授業と、今まさに自分が関わっている実習生が受けているリモート授業との質の違いを感じているのであろう、「リモートより対面授業がやはり良いな」という感想を述べている。

10 現在、本学で得た資格等を活用して働いていますか。



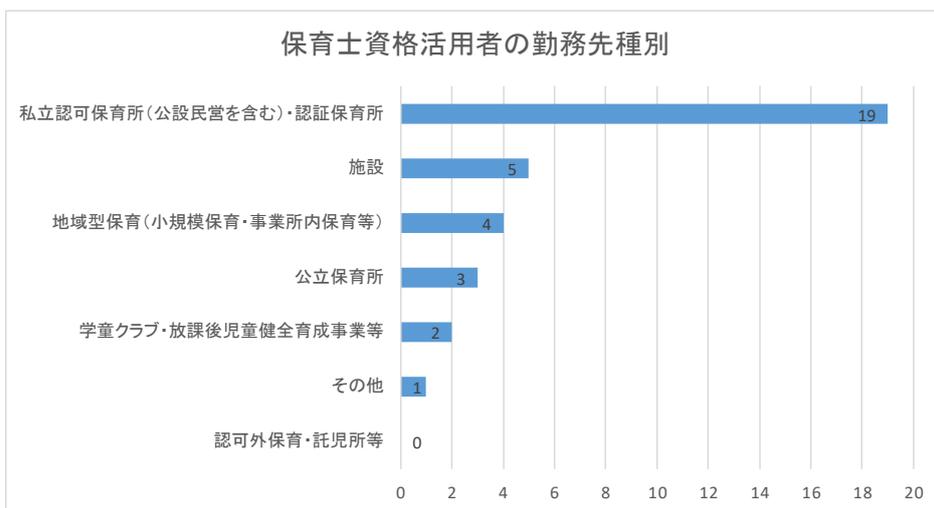
11 活用している資格を教えてください。



12 勤務先種別を教えてください。

11 で幼稚園教諭免許状を活用していると答えた者 15 名中、勤務先種別は、公立幼稚園 0 名、私立幼稚園 15 名であり、全員が幼稚園教諭免許状をもって私立幼稚園に勤務していることがわかる。昨今、公立の幼稚園は統廃合されたり、認定こども園となったりしているところもあり、これまでも少なかった公立幼稚園数がさらに減少している状況を鑑みると、幼稚園教諭希望者の多くが、私立幼稚園に勤務しているということは理解される。

13 勤務先種別を教えてください。



設問 12 の幼稚園教諭免許状活用者と比べ、保育士資格活用者は多種多様な勤務先に就職していることがわかる。保育士資格活用者 34 名中、私立認可保育所(公設民営を含む)・認証保育所に勤務する者は 19 名、施設に勤務する者は 5 名、地域型保育(小規模保育・事業所内保育等)に勤務する者は 4 名、公立保育所に勤務する者は 3 名、学童クラブ・放課

後児童健全育成事業等に勤務する者は2名、その他が1名であった。認可外保育・託児所等に勤務するものはいなかった。保育士資格は活用の範囲が広いものであり、今後も学生一人ひとりの希望にそった進路選択がなされていくであろう。

14 勤務先種別を教えてください。

保育教諭活用者1名は、私立幼保連携型認定こども園に勤務している。本学では、多くの学生が在学中に幼稚園教諭免許状と保育士資格を同時に取得しているため、このように保育教諭としても、免許・資格面で問題なく働くことができる。この卒業生は卒業後に勤務先を変更して認定こども園に勤めている。このように、両免許・資格を取得しておくことは、卒業後の勤務先変更の際にも、スムーズな転職につながる可能性が高いと考えられよう。

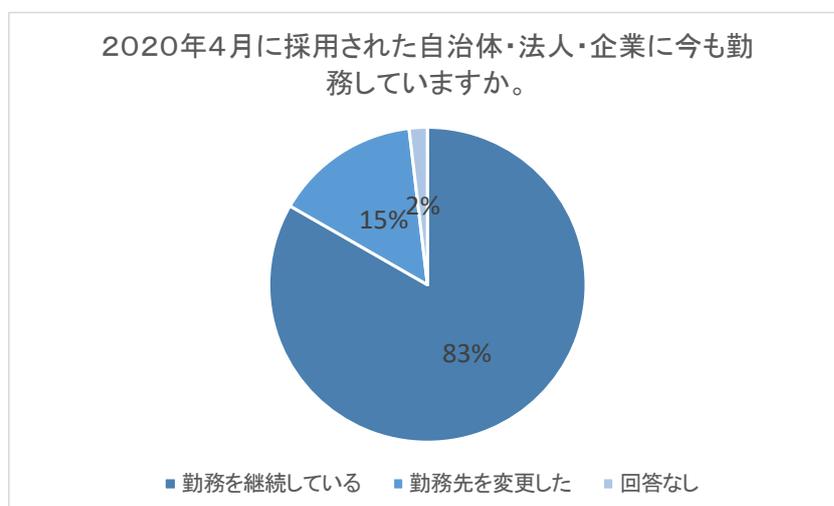
15 現在の状況を教えてください。

設問10「現在、本学で得た資格等を活用して働いていますか」でいいえと答えた4名の内、一般企業2名、その他2名であった。一般企業（サービス業）に就職した卒業生の一人は、設問6「本学での学修で社会人生活に役立った内容やエピソード」の記述で「サービス業の為お客様とのコミュニケーションが必要で、お子様の月齢の話や育児の話などができ、そこから仕事に繋げることができた」と回答しており、一般就職においても、本学での学びを活かしていることがわかる。

16 どの資格を活用してどのような仕事をしているかをご記入ください。

設問10「現在、本学で得た資格等を活用して働いていますか」において、その他と回答した者が0名であったことより、設問16の回答者も0名であった。

17 2020年4月に採用された自治体・法人・企業に今も勤務していますか。



<総合考察>

以上、2019年度卒業生へのアンケート調査分析を行った。多くの卒業生が本学での学びの成果を活かして保育職に従事しており、3年目にして実習生の指導を行っている者など、現場で活躍している様子を伺うことができる。社会人力や保育の専門性、人間力などの自己評価が高い者が多く、在学生へのメッセージの内容や卒業後も本学のプログラムに協力したいと答えた者が多いことから、人間的に成長しつつ人生を歩んでいる卒業生たちの姿を思い浮かべることができよう。

本調査は、今回が第一回目となるため、経年変化分析は今後の課題である。その他、回答率が29.3%であるため、今後調査を継続する際には、卒業生にアンケート調査を依頼する方法の検討を行う必要があるであろう。